

○荒井治喜<sup>1</sup>・高橋真実<sup>1</sup>・芦澤武人<sup>1</sup>・森脇丈治<sup>2</sup>

噴霧接種法によるダイズ茎疫病菌抵抗性の評価の試み

### Development of a Spray Inoculation Method for Evaluation of Phytophthora Rot Resistance in Soybean

ダイズ茎疫病菌のレース判別や品種抵抗性の評価には、胚軸接種法 (Schmitthenner and Bhat, 1994) が広く利用されているが、付傷接種の操作が極めて煩雑で多大な労力を要する。そこで、より簡便な噴霧接種法の利用を試みた。予め V-8 ジュース液体培地で 10 日間培養して得た 060626-4-1 菌株の菌体を滅菌水で洗浄し、滅菌水を加えた後ミキサーで破碎した。得られた菌体破碎液に界面活性剤を添加し、播種 10 日後の茎疫病菌レース判別 15 品種に噴霧して、25℃の接種箱に 1～2 日間静置した。その結果、罹病性品種では接種 2 日後に葉身に退緑斑点が生じ、1 週間後には顕著な茎枯症状を伴って萎凋・枯死した。一方、抵抗性品種では退緑および褐色斑点や軽微な葉枯れを生じるのみで、明瞭な品種間差が認められた。湿室処理 1 日間よりも 2 日間で発病程度の差が明瞭になり、胚軸接種法と同じ試験結果が得られた。さらに、8 菌株を供試してもほぼ同様の結果が得られたことから、噴霧接種法がレース判別やダイズの保有する抵抗性遺伝子の推定に利用できる可能性が示された。

(<sup>1</sup> 中央農研・<sup>2</sup> 富山農総技セ)